



# 高等教育とまちの未来

～福岡都市圏における「高等教育のグランドデザイン」を考える～

# 福岡未来創造プラットフォーム

資料6

## 【名称】

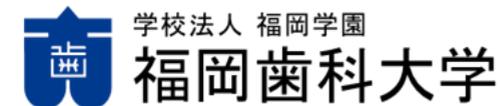
福岡未来創造プラットフォーム



## 【設立】

2019年5月 正式発足

## 【参画機関】

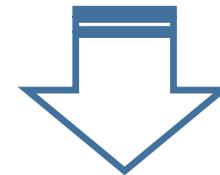


# 福岡未来創造プラットフォーム設立時の構想

## 大学 = 新しい知識の創造と人材育成を担う機関 + 若者が集積する機関

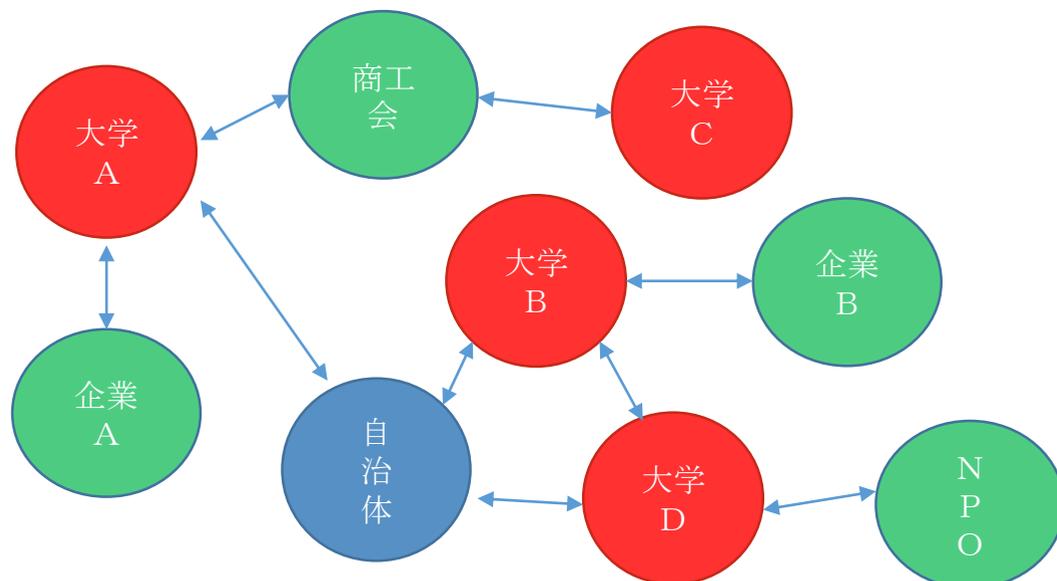
⇒グローバル化、情報化、少子高齢化、地方の疲弊等の社会の変化

⇒地域の活性化や発展を牽引する拠点としての役割を社会や地域から強く期待される  
(特に地域の未来を担う人材の育成への強い期待)

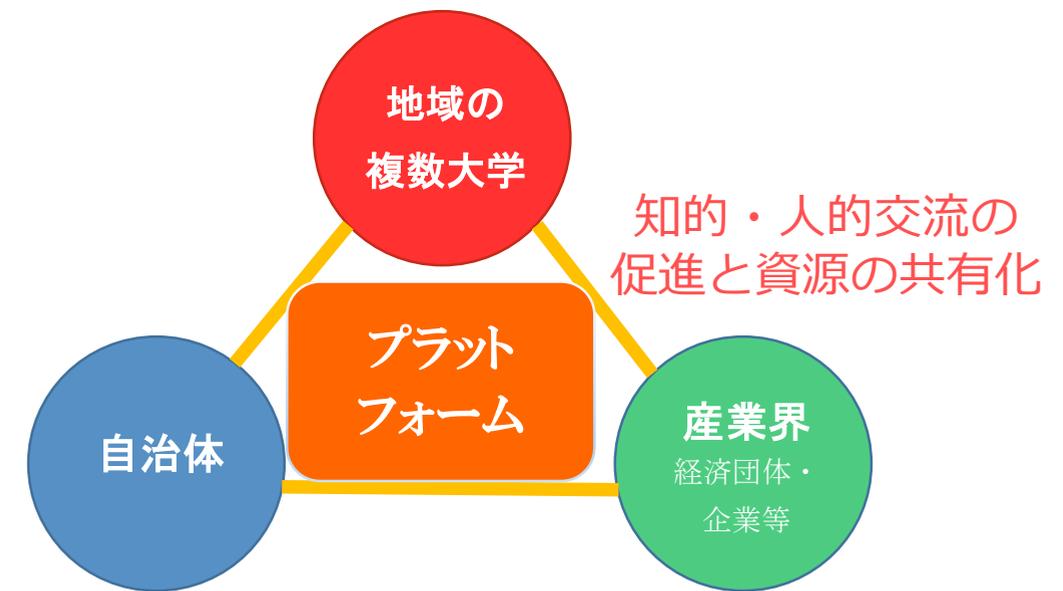
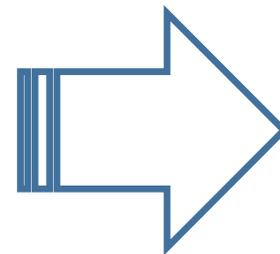


さらに新たな段階へ・・・

### < 「個別」 から 「全体=PF」 へ ⇒ PFでエリア全体と高等教育の振興に取り組む >



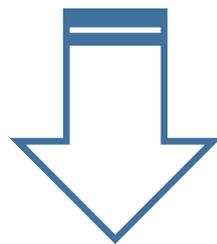
個別の大学ごとの取組・計画



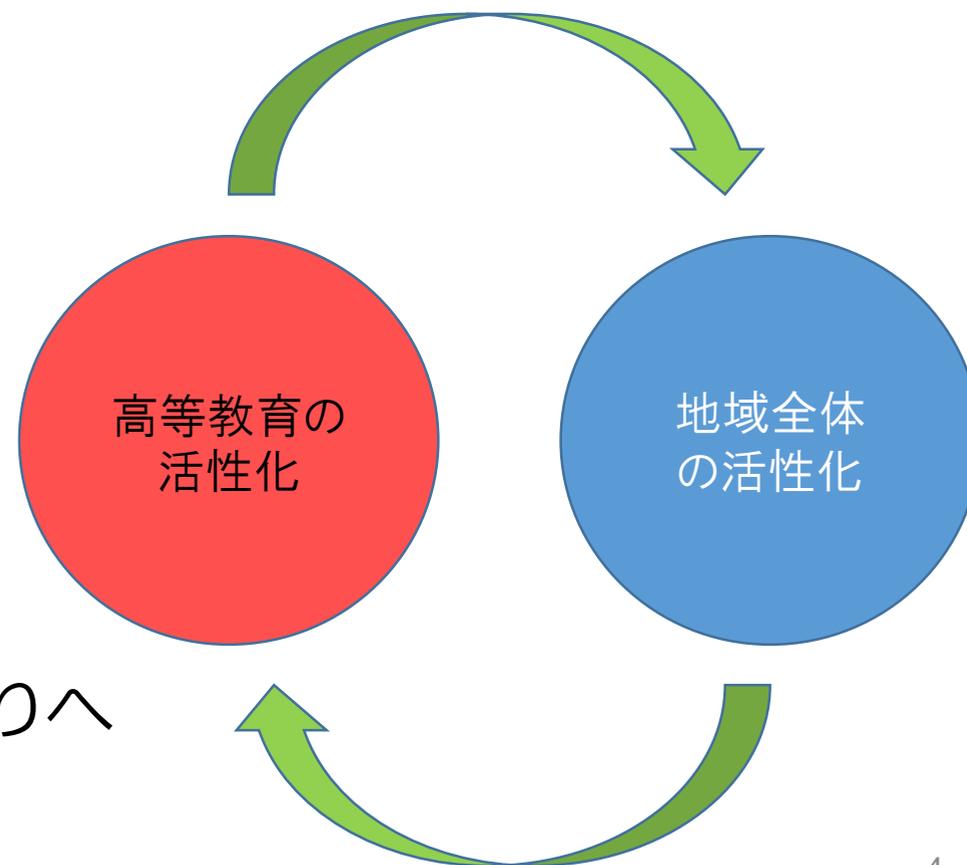
PF(複数大学・自治体・産業界)での取組・計画

## 特定の地域圏域内の高等教育及び地域全体の活性化を 複数大学・自治体・産業界の資源を結集させて実現する

一組織だけでは実現できないことを、  
複数組織の資源の共有・連携共同を通して実現



「個」から「全体」への新たな仕組・関係性づくりへ



## 地域全体で地域の高等教育のグランドデザイン を考え、創造する時代へ(⇔閉じられた大学)

「高等教育の将来像を国が示すだけでなく、それぞれの地域において、高等教育機関が産業界や地方自治体を巻き込んで、それぞれの将来像となる地域の高等教育のグランドデザインが議論されるべき時代を迎えていると考えられる。」

(「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」中央教育審議会、2018年)

## ＜大学が直面する課題と求められる変化＞

※文部科学省高等教育局「2040年を見据えた高等教育の課題と方向性について」資料より抜粋

- 18歳人口の減少
- 高等教育機関が「多様性」を発揮するためには、各大学は自らの強みや特色を意識して、自大学の発展の方向性の明確化や他大学との連携推進など、「強み」を強化していくことが必要。
- 各大学が社会の変化に対応した多様な教育プログラムの提供を実現するためには、一つの大学では成しえない複数の大学等の人的・物的リソースを効果的に共有していく仕組みが必要。
  - ●強み・特色を活かし、教育研究の高度化を図る    ●資源の共有化を含めた経営力の強化を図る

⇒ 今後も大学が教育研究力を維持・発展させ、まちや社会の発展に寄与していくためには、大学間だけでなく、特定エリア内の自治体・産業界・民間との連携・関係性の深化やリソースの共有化を進めていくことが必須

## ＜まちにおける大学の役割・強み＞

- 大学は若者の流入と定着を促す
- 大学には多様な専門領域の「知」と「人材」が集積している
  - 大学の発展はまちの発展につながり、まちの発展は大学の発展につながる  
(大学・自治体・産業界・民間の連携・関係性の深化による大学とまちの相互発展をめざす)

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(中央教育審議会、2018年)

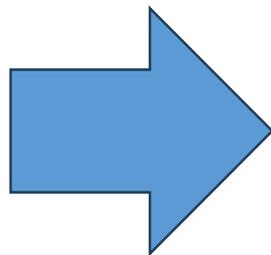
これからの高等教育が目指すべき姿(教育研究体制)・・・

## 「多様な価値観が集まるキャンパス」

「個々人がその可能性を最大限に活かし、AI時代やグローバル時代を生きていく能力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側が考える教育から脱却し、高等教育は「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」＝「多様な価値観が集まるキャンパス」になることが必要である。」

(「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」中央教育審議会、2018年)

「多様な価値観が集まるキャンパス」



## ① 多様な学生

—18歳で入学する日本人 + 社会人、留学生等の積極的受け入れ

## ② 多様な教員

—実務家教員、若手、女性、外国籍等の多様な人材の積極的な登用  
—大学間又は産官学間での教員の流動性の確保

## ③ 多様で柔軟な教育プログラム

—文理横断的な(学部・研究科の枠を越えた)教育カリキュラムの編成・提供  
—複数の大学等のリソースの共有に基づく多様な教育プログラムの提供  
—初等中等教育との接続と「学び」の再構築

## ④ 多様性を受けとめる柔軟なガバナンス

—①～③の実現のため、特定地域の複数大学・自治体・産業界等が連携や相互交流を行い、恒常的に意思疎通を図る体制として「地域連携プラットフォーム」を構築

## ⑤ 大学の多様な「強み」の強化

—大学の機能別分化のさらなる加速・推進

## ○ 福岡市「第10次福岡市基本計画(原案)」(2024年9月時点)

※本プラットフォームからの紹介により、九州大学の学生1名も審議会委員として計画策定に参画中

### <都市経営の基本戦略>

#### (基本戦略2) 多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる

人口減少社会を迎えた日本において、福岡市は、現在でも人口が増え続け、若者が多く、大学などの高度な教育・研究機能の集積、さらには企業の立地や創業が進んだことで、国内外からチャレンジ精神のある多様な人材が集まって来ています。

また、基礎自治体としての「現場」と都道府県に近い「権限」を持つ政令指定都市の強みや、国の規制緩和を活用し、先進的なテクノロジーの社会実装にも取り組んできました。

生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を推進するため、こうした福岡市の個性や強みを生かして、多様な人材が育ち、国内外から集い、互いに交流しながら、誰もが様々な分野で将来に向かってチャレンジできる環境をつくります。

### <計画各論 ー 分野別目標 ー 目標2 すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している>

#### (施策2-4) 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成

一人ひとりが将来に夢や希望を抱き、自分らしく健やかに成長できるよう、それぞれの個性や価値観を尊重するとともに、遊びや学びの場、様々な体験機会等の充実を図ります。

また、大学や専門学校などの高等教育機関と連携し、子どもや若者が、自己実現に向けてチャレンジできる環境づくりを進めるとともに、まちづくりへの積極的な参画を促すなど、様々な分野で活躍できる人材の育成に取り組めます。

- 「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた 高等教育の在り方について（中間まとめ）」  
（中央教育審議会、2024年8月）

## <今後の高等教育の目指すべき姿>

### 1. 「知の総和」の維持・向上

我が国において未来を担う若者が新しい価値を創造し、人類が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域社会の持続的な発展を担っていくためにも、「**知の総和**」(数×能力)を維持・向上することが必須

高等教育機関は、未来を担う人材の育成や、社会の新たな価値の創出に欠かせない役割を果たしており、教育と研究の機能をこれまで以上に強化することによって社会に貢献しながら、「知の総和」を維持・向上する中心的な役割を果たす

### 2. 高等教育政策の目的

- ・「質」:教育研究の質の向上
  - ・「規模」:社会的に適切な規模の高等教育機会の供給
  - ・「アクセス」:地理的又は社会経済的な観点からのアクセス確保による高等教育の機会均等の実現
- 3つの目的を、バランスよく、かつ効果的に達成するための**制度及び資源配分の在り方を検討**することが重要

### 3. 重視すべき観点

以下に示す観点も踏まえ、**教育研究体制の充実、高等教育を支える基盤の強化や高等教育機関あるいはそれ以外の機関との接続・連携等を図っていくことが必要**

- ①新たな時代に対応した教育内容の改善
- ②流動性に支えられた多様性の確保
- ③高等教育の国際化の推進
- ④国際競争の中での研究力の強化
- ⑤学生への経済的支援の充実
- ⑥デジタル化の推進
- ⑦高等教育機関の運営基盤の確立
- ⑧高等教育機関を取り巻く組織・環境との接続の強化

※2024年2～3月にPF加盟大学の学生を対象に実施した「第2期中長期計画策定に向けた学生ヒアリング（第1～3回）」より一部を抜粋

## ○ キャンパスを越えた、多様な人びとや価値観と出会う場・きっかけ

### <プラットフォームで様々な「きっかけ」を提供してほしい>

…他大学の学生とつながったり、社会人とつながったり、ワークショップに参加したりなど、何かの「きっかけ」で大きく変わったり、成長したりする大学生は多い。しかし、こうした「きっかけ」は大学生の日常にはなかなかない。様々な「きっかけ」をプラットフォームが設計し、提供してくれれば、多くの学生によってより良い環境になるのではと思う。

### <企業や社会人つながる機会がほしい>

…学生のうちにどれだけ多くの「良い大人(=前向きに生きている大人／学生を応援してくれる大人)」に出会えるかが将来に関わってくると思うので、そのような大人とたくさん出会える機会がほしい。

…福岡のまちで働き、活躍する先輩方とつながるような仕組みがあれば、そのつながりを通して福岡のまちへの愛着や、福岡で働くことへの関心を深めることにつながるかもしれない。

### <他大学の教員とつながる機会がほしい>

…自分の専門分野以外の学問分野も学んでみたいと考えている学生はたくさんいるのではないかと思う。例えば人文科学系しかない大学の学生が情報学に関心があって学びたいとき、あるいは工業系の大学であるが考古学に関心があって学んでみたいときなど、自身の関心がある学問分野の専門の先生が近くにいないことも多い。そのような場合は、自大学を越えて他大学の先生とつながることができるなら、自身の興味関心をどんどん広げていけると思う。様々な学問分野に触れることができるのは大学生のうちだけなので、そのような仕組みや環境があればとてもありがたいと思う。

※2024年2～3月にPF加盟大学の学生を対象に実施した「第2期中長期計画策定に向けた学生ヒアリング（第1～3回）」より一部を抜粋

## ○（前ページの続き）

### <様々な活動をしている他大学の学生同士や学生団体がつながる場がほしい>

- …地域のなかで面白い活動をしている（またはしたいと思っている）学生が定期的集まり、交流できるようなイベントがあれば、ぜひ参加したい。そのような人たちとの交流のなかから、多くを学べるし、世界も広がると思う。新しい気づきや行動のきっかけにもなると思う。
- …学生団体やグループ間で交流したり、互いの活動を知ることができれば、相互の学びや刺激になる。また、どの学生団体も学生向けのイベントを開催しても集客が大変であるという共通の課題を持っていると思うので、このような共通の課題についても学生団体間のネットワークができることで協力して取り組むことができる。また、学生団体やグループの交流や活動発表の場に企業や社会人に参加してもらえらるなら、自分たちの活動を広く知ってもらえるし、活動の協力・支援者づくりにもつながる。

### <天神・博多の中心街に大学生が集まれる活動拠点がほしい>

- …天神・博多で大学生がミーティングやイベント等をする際に、無料で使える施設がない。その都度、お金を払って施設を借りたり、カフェを利用したりする。プラットフォームの活動拠点があれば、大学の垣根を越えた学生間のつながりや交流が自然と生まれるのでは。中心街に拠点があれば大学生の活動の機会や選択肢も増えると思う。

### <福岡県外の学生と交流する機会がほしい>

- …多様な分野で活動・活躍している県外の学生とつながることで学びや刺激になる。また福岡の学生が福岡のまちの魅力に気づききっかけになるかもしれない。県外の学生と交流する機会をプラットフォームが定期的につくってくれるならありがたい。

※2024年2～3月にPF加盟大学の学生を対象に実施した「第2期中長期計画策定に向けた学生ヒアリング（第1～3回）」より一部を抜粋

## ○福岡未来創造プラットフォームが「ひとつの大学」になる

…福岡未来創造プラットフォームがひとつの大学のようになり、大学や組織の垣根を越えて一緒に学生を育てたり、他大学の教員や学生、また様々な企業の社会人などと日常的につながることができるようになれば、学生にとってとても良い環境になるのではないか。

※本プラットフォームのThink&Doタンクである「福岡まなびラボ」において、2022年9月15日、2023年9月13日に「福岡の大学とまちの未来」をテーマに福岡都市圏で先進的な教育人材育成に取り組む大学・学校・自治体・産業界等の実践者と大学生で対話を行った成果のまとめから一部を抜粋

## ○ 個別の「大学」という枠の限界

### ⇒ 学びや出会いの機会と選択可能性の拡充

個別の大学という枠そのものが社会の実情や学生のニーズに合わなくなっているのではないか。今の時代はYouTubeを初めとして学びのコンテンツは豊富にあり、個人の関心をどんどんと広げていける環境にある。一方、ひとつの大学が個々の学生の多様な興味関心にどれだけ対応できているかといえば、個別の大学で提供できるコンテンツには限界があり、非常に狭い。また、ひとつの大学のなかだけでは学生が本当に意気投合できる人と出会う確率も低い。東京に進学する人の動機は、たくさん人がいて、豊富にコンテンツがあるところに行けば自分のやりたいことが見つかるのではないかという考えがあると思う。福岡の大学とまちでも同じように「多様性」を創りだしていくことができなければ、東京や他のまちに対抗するのは難しいのではないか。「多様性」を創りだすことに失敗すれば、学生が福岡に来たり残ったりすることはなくなるのではないか。そのためにも、個別の大学を越えて、福岡都市圏の複数の大学をつなげていき、学びのコンテンツや人との出会いの機会を最大化し、今の学生の多様な興味関心に答えることができる環境をつくっていくという考え方が重要である。

※本プラットフォームのThink&Doタンクである「福岡まなびラボ」において、2022年9月15日、2023年9月13日に「福岡の大学とまちの未来」をテーマに福岡都市圏で先進的な教育人材育成に取り組む大学・学校・自治体・産業界等の実践者と大学生で対話を行った成果のまとめから一部を抜粋

## ○ 大学生が主役となる大学づくり・まちづくりの展開

学びの当事者である大学生が、学びの消費者としてではなく、プラットフォームの場を活用し自分たちで福岡のまちや大学を良くしていくプロジェクトを次々と立ち上げるようになれば面白くなるのではないかと。そのような動きが活発になることで、大学生も受け身ではなく、主体性や当事者意識が育っていくのではないかと。／プラットフォームの事業創出を担う各ワーキンググループに大学生が参画したほうが良いと思う。学びの当事者である大学生がワーキンググループに直接参画することで、もっと学生目線での企画を作っていけると思う。真に学生ファーストのプラットフォームをつくっていくには、学生の視点やアイデアを取り入れていくことができる体制づくりが重要。／大学生が「福岡のまちでやってみたいプロジェクト」を自由にプレゼンして、福岡の企業や自治体等がその実現に向けて全力でサポートするような関係性ができれば面白いと思う。学生が裁量権をもってまちのなかでどんどんと活躍することで、まちや社会の当事者としての意識も育まれていくのではないかと。

※本プラットフォームのThink&Doタンクである「福岡まなびラボ」において、2022年9月15日、2023年9月13日に「福岡の大学とまちの未来」をテーマに福岡都市圏で先進的な教育人材育成に取り組む大学・学校・自治体・産業界等の実践者と大学生で対話を行った成果のまとめから一部を抜粋

## ○「学びの動機付け」の必要性

日本の教育は「学びの動機づけ」に失敗しているのではないか。なぜそれを学ばなければいけないのかを考えることがないまま、大学まで進学しているケースが多い。子どものときから学びの動機づけができている場合は、主体的にどんどんと学んでいけるが、そうでない場合は、自ら学ぶことは少ない。大学進学以前から（早くは幼児教育から）の学びの動機づけが重要であり、そのためには各教育段階を越えた連携が必要になる。

学びの動機づけのためには、リアルな社会を前提とした学びが重要になる。また、幼児期から様々なものに触れて、自分は何が好きなのか、何に向いているのかを知る機会をたくさん作り、まわりがそれを育てていくことも重要。そのためには、教育に携わる人材のさらなる多様化を進めていくことが必要になる。

大学のなかに動機づけのプロ、場づくりのプロが少ないことが課題ではないか。現在の大学は、研究の世界で育ち決して教育のプロではない教員と、学びの動機づけができていない多くの学生から構成されている。結果として、多くの学生が学びのスイッチが入っていないまま大学時代を過ごし、福岡都市圏だけで毎年何万人もの学生が輩出されているが、相当の可能性の損失が生じているのではないか。

福岡都市圏の大学および自治体・産業界・民間が  
連携・協力し、どのような新しい大学とまちの未来の  
あり方や関係性を構想し、実現していくことができるか

- 福岡未来創造プラットフォーム設立時の構想  
特定の地域圏域内の高等教育及び地域全体の活性化を複数大学・自治体・産業界の資源を結集させて実現する
  - ・「個」から「全体」への新たな仕組・関係性づくりへ
  - ・地域全体で地域の高等教育のグランドデザインを考え、創造する時代へ（⇔閉じられた大学）
- 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（中央教育審議会、2018年）  
これからの高等教育が目指すべき姿（教育研究体制）…「多様な価値観が集まるキャンパス」
  - ① 多様な学生② 多様な教員③ 多様で柔軟な教育プログラム
  - ④ 多様性を受けとめる柔軟なガバナンス⑤ 大学の多様な「強み」の強化
- 福岡市「第10次福岡市基本計画（原案）」（2024年9月時点）  
〈都市経営の基本戦略〉（基本戦略2）多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる  
〈計画各論-分野別目標-目標2 すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している〉  
（施策2-4）将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成
- 「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた 高等教育の在り方について（中間まとめ）」  
（中央教育審議会、2024年8月）  
〈今後の高等教育の目指すべき姿〉教育研究体制の充実、高等教育を支える基盤の強化や高等教育機関  
あるいはそれ以外の機関との接続・連携等を図っていくことが必要
- 福岡未来創造プラットフォームが学生ファーストの「ひとつの大学」になる  
福岡未来創造プラットフォームがひとつの大学のようになり、大学や組織の垣根を越えてリソースを共有し、  
一緒に学生を育て、他大学の教員や学生、また様々な企業の社会人などと日常的につながるようになれば  
良いのではないか

福岡都市圏の大学および自治体・産業界・民間が連携・協力し、どのような新しい  
大学とまちの未来のあり方や関係性を構想し、実現していくことができるか → 積極的に推進